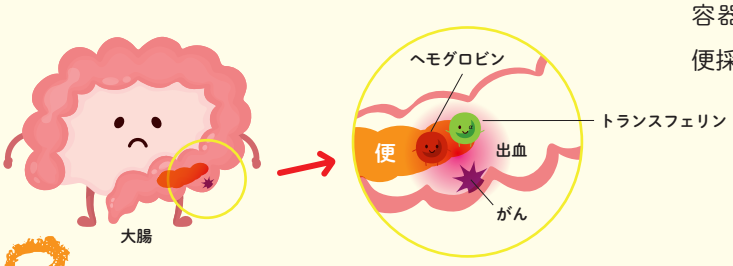
受けましょう！ 大腸がん検診

大腸がん検診を正しく理解しましょう

異なる標的を加えた便潜血検査

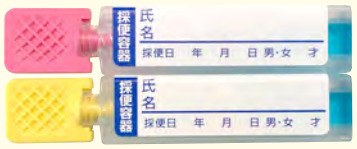
1 同時2項目を測定する便潜血検査

大腸にがんなどの異常が起きると出血して便に血液が混じるようになります。大腸がん検診の便潜血検査では、血液成分の一つである「ヘモグロビン」という物質を測定しています。しかし、出血により腸内に出てきたヘモグロビンは、便として出てくるまでに腸内環境（温度、湿度、腸内細菌、消化酵素等）によって変性して正確に測れないことがあります（偽陰性の疑い）。この弱点を補う目的で、同じ血液成分である「トランスフェリン」というたんぱく質を同時に測る検査法があります。



2 便潜血検査における「トランスフェリン」とは

トランスフェリンとは、血液中で鉄の運搬に関係しているたんぱく質です。トランスフェリンは、腸内細菌にさらされても変性しにくく、ヘモグロビンに比べて腸内環境下での安定性が高い物質です。このトランスフェリンをヘモグロビンと共に測定することにより、ヘモグロビン単独では偽陰性となる結果の一部を補うことが期待されます。この方法は、1つの採便器具（採便容器）から2つの測定項目を測ることができますので、従来の便採取方法と何ら変わりはありません。



ヘモグロビン

血液中で最も量が多い成分で、赤血球にあって酸素を運ぶたんぱく質。大腸に長く滞在すると大腸内の細菌等で変性してしまい、検査に反応しないことがある。

ヘモグロビンとトランスフェリンの同時測定による便潜血検査
― これら2項目の特徴を併せ持った便潜血検査法 ―

トランスフェリン

血液中にある鉄を運ぶたんぱく質。ヘモグロビンよりも腸内安定性が高く（細菌等の影響を受けにくい）、検査に対して安定している。

3 便潜血検査の結果が陽性なら、必ず精密検査の受診を！

便潜血検査で陽性（要精検）と判断されても、「大腸がん」だとは限りません。痔の場合もあるし、ポリープの場合もあるでしょう。「異常なし」も少なくありません。精密検査で「本当のこと」を知ることが大切です。「前に精密検査を受けたけれど異常なしだったから、今回もそうだろう」こんな声を聞きますが、自己判断で放置せず、便潜血検査の結果が陽性（要精検）であれば、必ず精密検査を受けてください。

大腸がん検診、受けていますか。

あなたが40歳以上でしたら、年に1回、欠かさず受けてください。

あなたが40歳未満でしたら、40歳以上のご家族やお知り合いに勧めてください。

そしてあなたが40歳を迎えたら、あなた自身、必ず受けることを忘れないでください。

Q 1: 大腸がん検診って、受けたほうが良いの? 著名な人のことがニュースになると気になるけれど、つい面倒で・・・そのうち忘れてしまって。

A 1: ぜひとも受けてほしい。面倒な気持ちは分かります。下痢や便秘を繰り返したり、血便があったりするわけでもないのに、なんで?って思うこともあるでしょう。でも大腸がんは40代の働き盛りから増え始めます。４０歳になったら必ず検診を受けてください。

Q 2: 検便だね? 子どもの時によく受けた。

A 2: それとはちがいます。便潜血検査といって、便を採取し血液成分が混じっていないかをしらべます。異常が無い場合はふつう、血が混じることはありません。便潜血検査では、ヘモグロビンという物質を測ります。ヘモグロビンは、酸素を運ぶ血液成分です。国は、基本的に2日にわたって便を2回採取する方法(2日法)を勧めています。1回でもひっかかったら「要精検」です。採便後に容器を保管する時は、必ず、「冷暗所」で保管してください。もし血液の成分が混じっていても、室温や日向で暖められると正しく検査できない可能性がありますので、採便後の容器保管には注意をしてください。

Q 3:検診でひっかかって精密検査を受けたけれど異常がなかったって、よく聞く。同僚も言っていた。下剤をたくさん飲んでお腹を空っぽにするのも大変だったらしい。がんが見つかると怖いから精密検査を避けたい気もする。

A 3: 「要精検」なのに受けなかった人は、受けた人より死亡率が4倍高いというデータもあります。日本対がん協会の全国の支部では年に250万人の検診をして4千4百人のがんを見つけています(2017年度)。精密検査を受けた人の4%にあたります。一方で、「要精検」になった人の31%(約5万人)は精密検査を受けたかどうか不明です。この全員が受けていれば2千人にがんが見つかる計算なのですが。その精密検査ですが、便潜血検査をもう一度、というのはダメです。注意してください。

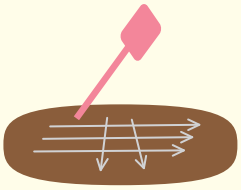
Q 4:とにかく検診を欠かさず受け、ひっかかったら精密検査、ということだね。

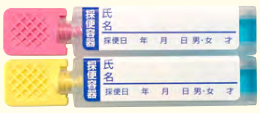
A 4: その通り。大腸がんは一般的に進行がゆっくりだし、早く見つかれば内視鏡治療もでき、治療成績も非常に高い。検診を受ける人が倍になれば、亡くなる人だけでなく、罹患する人も減るのは間違いありません、アメリカですでに証明されつつあります。良いところは遠慮なく真似しませんか。

便潜血検査(2日法)の流れ

1～3はご自宅で簡単にできる検査です。

1 ご自宅のトイレで ＞ 2 採便スティックで便をなぞります ＞ 3 採取は2日行います ＞ 4 検診機関や病院等に提出





【便を採取する際のポイント】

・専用の採便器具(採便容器)に添付されている説明書通りに採便する。・便を採取した容器は、検診機関や病院等に持参するまで必ず冷暗所に保管。

監修：佐々木文郷・鹿児島大学病院消化器内科講師
垣添忠生・公益財団法人日本対がん協会長
企画：アルフレッサ ファーマ株式会社

がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい
公益財団法人 日本対がん協会
2024年5月改訂
3037902400